

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成23年9月7日(水) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 新理事就任のお知らせ
2. 山形の魅力再発見 Part9
3. 東日本大震災復興プラン提案コンペで最優秀賞受賞
4. 「イノベーション・ジャパン2011-大学見本市」に出展します。

お 知 ら せ

1. 大学コンソーシアムやまがた『やまがた夜話』(9月分)
2. 人文学部公開講座『ポスト震災を考えるーこれからの社会のあり方ー』
3. 有機エレクトロニクス研究センター『開所記念式典・記念講演会』
4. 国際事業化研究センターまちづくり談話会、もっとみらいコンソーシアム研究会
『中国における事業展開と資金調達』
5. 大学コンソーシアムやまがた
『正解への道標～ミチシルベ～大学生による大学受験講座！』
6. 特別プロジェクト「井上ひさしの東北」公開講座『井上ひさしの世界』
7. 附属博物館公開講座『掛軸のいろ・は～表装から画題まで～』

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成23年9月20日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成23年9月7日
山形大学

新理事就任のお知らせ

- こ やま きよ ひと 小山 清 人 (再任)
(学長代理) 教育、学生支援担当

- きた の みち よ 北 野 通 世 (再任)
総務、入試

- ふか お あきら 深 尾 彰 (再任)
研究、評価、医療

- やす だ ひろ のり 安 田 弘 法 (新任)
社会連携、国際交流

- しば さき たかし 柴 崎 孝 (再任)
財務、施設

※ 任 期 : 平成23年9月1日～平成25年8月31日

(お問い合わせ)
総務部広報室
(TEL) 023-628-4005

役員の経歴等

法人名 国立大学法人山形大学

(平成23年9月1日現在)

役職	氏名	就任年月日	経歴
理事	こやま きよひと 小山 清人	平成23年9月1日	昭和49年 4月 山形大学工学部助手 昭和62年10月 山形大学工学部助教授 平成 4年 4月 山形大学工学部教授 平成 7年 3月 山形大学附属図書館工学部分館長(～平成10年12月) 平成10年11月 山形大学評議員(～平成13年8月) 平成11年 2月 山形大学大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長(～平成17年3月) 平成16年 4月 山形大学工学部長(～平成19年8月) 平成19年 4月 山形大学大学院理工学研究科教授 平成19年 9月 国立大学法人山形大学理事
理事	きたの みちよ 北野 通世	平成23年9月1日	昭和55年10月 弘前大学教養部講師 昭和59年 5月 弘前大学教養部助教授 昭和63年 4月 山形大学人文学部助教授 平成 6年 6月 山形大学人文学部教授 平成16年 4月 山形大学評議員(～平成18年3月) 平成19年 9月 国立大学法人山形大学理事
理事	ふかお あきら 深尾 彰	平成23年9月1日	昭和57年 1月 東北大学医学部助手 昭和61年 4月 日本電信電話株式会社宮城支社 平成 1年 4月 東北大学医学部助教授 平成 8年 6月 山形大学医学部教授 平成16年 4月 山形大学評議員(～平成20年3月) 平成20年 4月 山形大学医学部副学部長(～平成23年3月) 平成23年 4月 国立大学法人山形大学理事
理事	やすだ ひろのり 安田 弘法	平成23年9月1日	平成 4年 4月 山形大学農学部助手 平成10年 1月 山形大学農学部助教授 平成13年 4月 山形大学農学部教授 平成17年 4月 山形大学評議員(～平成19年9月) 平成19年10月 山形大学農学部長(～平成23年3月) 平成23年 9月 国立大学法人山形大学理事
理事	しばさき たかし 柴崎 孝	平成23年9月1日	昭和47年 4月 高エネルギー物理学研究所 昭和55年 5月 文部省 平成 5年 4月 大分大学 平成 7年 4月 文部省(13. 1～文部科学省) 平成15年 1月 高エネルギー加速器研究機構総務部長 平成16年 4月 大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構総務部長 平成17年 4月 文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室長 平成19年 4月 総合研究大学院大学事務局長 平成21年 9月 国立大学法人山形大学理事

平成23年9月7日

山形大学

山形大学都市・地域学研究所 公開講座

山形の魅力再発見 Part9

9回目となる『山形の魅力再発見』では、都市・地域学研究所のポテンシャルを結集して、山形の自然・歴史・経済を再発見します。

○プログラム：

10月 1日（土） 時間：9：00～17：00

場所：山形大学農学部演習林（鶴岡バス移動）

「山形のブナ林について」 野堀嘉裕（農学部 教授）

「再生可能エネルギーの生産とバイオマスについて」

上木厚子（農学部 教授）

10月 8日（土） 時間：13：00～16：10

場所：山形大学人文学部

「最上義光をめぐって ～新発見の文書を紹介しつつ～」

松尾剛次（人文学部 教授）

「山形県地方自治体の財政力」 貝山道博（人文学部 教授）

10月22日（土） 時間：9：00～16：00

場所：天童市内（バス移動）

「織田信長 一本能寺の変を中心にして」

松尾剛次（人文学部 教授）

○募集人員：一般市民・大学生・高校生 定員30名

○受講料：6,000円（3回分、バス代込）

◆本学バーチャル研究所である「山形大学都市・地域学研究所（所長：松尾剛次人文学部教授）」では、平成15年から「山形の魅力再発見」として、公開講座を実施しています。

◆歴史・経済・環境工学・医学・看護学の観点から、一面では山形県地域の魅力を再発見し、他面においては課題の指摘とその解決策などを提言し、21世紀の山形地域の活性化と発展に寄与することを目的としています。

（お問い合わせ）

山形大学人文学部 松尾研究室

（TEL）023-628-4917

山形の魅力 再発見

パート9

山形大学都市・地域学研究所 所長
人文学部 教授 松尾 剛次

募集締切

受講料 (3回分)

9月27日(火) 6,000円(バス代込)

募集人員

一般市民・大学生・高校生 定員30名

10月1日(土) <時間>9:00～17:00
<場所>山形大学農学部演習林(鶴岡バス移動)

「山形のブナ林について」

農学部 教授 野堀 嘉裕

「再生可能エネルギーの生産とバイオマスについて」

農学部 教授 上木 厚子

10月8日(土) <時間>13:00～16:10
<場所>山形大学人文学部

「最上義光をめぐる ～新発見の文書を紹介しつつ～」

人文学部 教授 松尾 剛次

「山形県地方自治体の財政力」

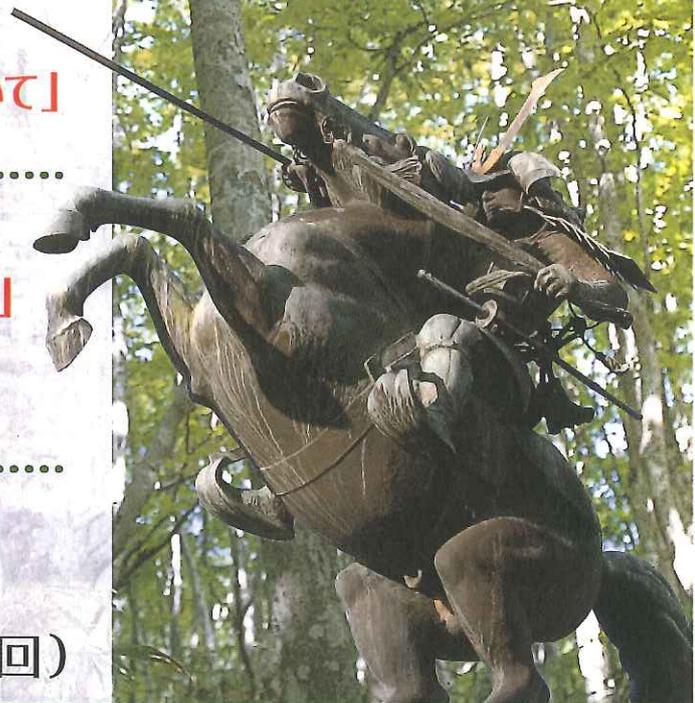
人文学部 教授 貝山 道博

10月22日(土) <時間>9:00～16:00
<場所>天童市内(バス移動)

「織田信長 一本能寺の変を中心にして」

人文学部 教授 松尾 剛次

(全3回)



申込方法

TEL・FAX・E-mailのいずれかでお申込み下さい。(受講通知書および受講料振込書を郵送致します。)

問合せ・申込先

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 山形大学人文学部 松尾研究室: 青木
TEL/FAX: 023-628-4917 E-mail: kmatsuo@human.kj.yamagata-u.ac.jp
または山形大学人文学部総務係 TEL: 023-628-4203

10月1日(土)

山形のブナ林について

農学部 教授 野堀 嘉裕

ブナ林は北海道南部から鹿児島県まで日本に広く分布しているが、その多くは東日本に集中している。中でも山形県はブナ林分布の中心であり低地から高山に至る広範囲にブナ林が生育できる環境にある。山形大学農学部附属フィールド科学センター上名川演習林はまさにブナ林の中心にあたる。この地域は、歴史的にみてブナ原生林とナラを主とする里山、それにスギ人工林がある。今回はこの地域で自然と人間の調和を実感してみよう。

再生可能エネルギーの生産とバイオマスについて

農学部 教授 上木 厚子

石油・石炭・天然ガス等の化石燃料の利用が原因とされる大気中二酸化炭素濃度の増加による気候変動(温暖化)が懸念されてきていますが、一方これらの化石燃料はいずれ枯渇すると考えられます。本講座では、環境に負担を与えず、使っても枯渇しない風力や太陽光などの「再生可能エネルギー」導入の国際的状況と、再生可能エネルギーの一つとして位置づけられるバイオマス(生物資源)のエネルギーへの変換法について概説します。

10月8日(土)

最上義光をめぐる ～新発見の文書を紹介しつつ～

人文学部 教授 松尾 剛次

最上義光は山形藩 57 万石の初代であり、山形県の基礎を築いた戦国大名である。2014 年は没後 400 年にあたり、最上義光に注目が集まりつつある。本講演では、本年 1 月に新発見した 2 点の最上義光文書を紹介しつつ、義光による山形・庄内支配の実態に迫ってみたい。

山形県地方自治体の財政力 ～真の地域主権とは何か?～

人文学部 教授 貝山 道博

地方主権が叫ばれている今日、山形県の市町村はそれを確立するだけの財政基盤をもっているのだろうか。現在どの市町村も多くの財源を国や県の補助金に頼っている中で、その実現の可能性は果たしてあるのだろうか。こうした観点から、本講座では、山形県内主要市町村の近年の財政状況を比較し、問題点とその解決策を探り、真の地域主権とは何かについて考える。

10月22日(土)

織田信長 ―本能寺の変を中心にして―

人文学部 教授 松尾 剛次

天童市は織田藩の支配地で、織田信長と無縁ではありません。本講演では、信長がなぜ本能寺で死んだのかを中心に、本能寺のなぞに迫ってみます。

平成23年9月7日

山形大学

子どもが元気に育つまちづくり

東日本大震災復興プラン提案コンペで**最優秀賞**受賞

東日本大震災復興プラン国際提案競技において、基盤教育と大学院地域教育文化研究科の学生が**最優秀賞**と**優秀賞**を受賞しました。

- ◆ 8月30日に、こども環境学会が主催した「東日本大震災復興プラン国際提案競技」の審査結果が公表され、山形大学の基盤教育と大学院地域教育文化研究科から応募した提案が、最優秀賞3点、優秀賞7点を受賞しました。
- ◆ 「東日本大震災復興プラン国際提案競技」は、被災された地区に対する“知恵と夢”の支援です。次世代を担う子どもが元気に育つことができるまちをつくるため、子ども達の意見や視点を尊重しながら復興するためのプランやプログラムについて、そのアイデアが世界中から応募されました。
- ◆ 応募された提案は、被災された住民主体によるまちづくりの資料として活用され、日本ユニセフ協会、関係学協会をはじめとする専門家集団がサポートし、速やかな復興、まちづくりの実現への推進力となることが期待されています。
- ◆ 競技は、12歳以下、18歳以下、24歳以下、25歳以上の4つのカテゴリーに分類され、本学からは18歳以下の【カテゴリー2】と24歳以下の【カテゴリー3】に応募しました。
これは、東日本大震災の復興に向けて何か授業での取組みができないかということで、基盤教育基幹科目「子ども環境と地域共生」、大学院地域教育文化研究科の大学院の授業「地域デザイン特論」、生活環境科学コースの設計製図関連科目等の授業で取り組んだものです。
- ◆ 【カテゴリー2】では、応募総数48件中、最優秀賞3点、優秀賞6点を獲得し、【カテゴリー3】でも応募総数59件中、優秀賞1点を獲得しました。
- ◆ 授賞式は、9月25日（日）13：30から、東京都港区にある建築会館において開催されます。
なお、【カテゴリー3】で優秀賞を獲得した提案は、10月9日に開催される「仙台こどものまち」に『音遊び研究所（仮称）』として参加します。

（お問い合わせ）

山形大学地域教育文化学部 佐藤慎也
（TEL）023-628-4377

◆受賞した学生は下記のとおりです。

<Category 2> 18歳以下 (2011.3時点)

Gold Prize (最優秀賞3点)

No.243

地域教育文化学部文化創造学科音楽芸術コース1年 東城里奈
地域教育文化学部生活総合学科システム情報学コース1年 蕪木茉莉奈
地域教育文化学部生活総合学科システム情報学コース1年 香曾我部早紀
タイトル:春夏秋冬 みんなの村

No.136

地域教育文化学部地域教育学科1年 佐藤千春、柿崎佳奈子
タイトル:こども農園をつくろう

No.138

人文学部人間文化学科1年 鈴木菜月
医学部医学科1年 植松真生
チーム名:大宮 eighteen
タイトル:子どものためのまちづくり
-子どもが“ひと”と関われる場をつくろう!-

Silver Prize (優秀賞6点)

No.160

地域教育文化学部地域教育学科1年 横山侑季、石山葉月、深澤阿友美
チーム名:チームほたる
タイトル:子どもたちから復興を!

No.95

地域教育文化学部生活総合学科生活環境科学コース1年 岸惇平
理学部数理学科1年 塚本健佑
タイトル:ともだちレター

No.148

人文学部法経政策学科1年 榎本栄里、本間知美
チーム名:でこぼこフレンズ
タイトル:子どもが元気に育つまちづくり -知恵と夢の支援-

No.146

地域教育文化学部地域教育学科1年 荒井千絵美、高野友佳
チーム名:ヨーグルト
タイトル:室内で遊ぼう

No.207

医学部看護学科1年 佐藤咲希、大森絵理香、遠藤知佳
チーム名:マリンキッズ
タイトル:マリンキッズ

No.145

地域教育文化学部生活総合学科食環境デザインコース1年 後藤緑、東野あゆみ
タイトル:笑顔が集まる防災公園

<Category 3> 24歳以下 (2011.3時点)

Silver Prize (優秀賞1点)

No.214

大学院地域教育文化研究科文化創造専攻音楽芸術分野1年 鈴木恵
タイトル:子どもが元気な街づくり 音あそびプロジェクト 音楽で街を元気に

子どもが元気に育つまちづくり
東日本大震災復興プラン提案競技
審査結果 記者発表

日時 2011年8月30日(火) 午後2時より3時まで

場所 (公財)日本ユニセフ協会 ユニセフハウス 1階ホール
〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス
http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_hou_ac.html

【進行予定】

挨拶：

こども環境学会会長 小澤紀美子

提案競技について：

提案競技実行委員会委員長 仙田満

審査結果について：

審査委員長 和田章

受賞作品発表：

こども環境学会事務局 中山豊、井上寿

審査講評など：

審査副委員長 小澤紀美子

審査副委員長 早水研

質疑応答

受賞作品閲覧

最優秀賞 (Gold)、優秀賞 (Silver) を展示

**子どもが元気に育つまちづくり
東日本大震災復興プラン提案競技
の報告について
(審査結果の公表)**

2011年8月30日

こども環境学会では、東日本大震災に際して、東日本大震災支援にかかる行動計画「子どもの参画による、子どもにやさしいまちの再生を目指して」を作成し、被災地の復興支援活動を推進しておりますが、その一環として日本ユニセフ協会の協力をいただいて「子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン国際提案競技“知恵と夢”の支援」を実施しました。

応募作品の提出を締め切り（7月15日にカテゴリ4締切、8月15日にカテゴリ1、2、3締切）、8月28日（日）に審査委員による審査を終えましたので、本日ここに、審査結果を発表いたします。

復興プラン提案競技の詳細については、下記のこども環境学会ホームページをご参照ください。すべての応募作品をホームページに掲載しております。

こども環境学会ホームページ：<http://www.children-env.org/>

震災支援専用サイト：<http://www.children-env.org/sinsai/?lang=japanese>

また9月25日より建築会館にて展示会、プレゼンテーション、作品集披露などを行いますので、ぜひお集まりいただくと幸いです。

敬具

2011年8月30日

公益社団法人こども環境学会

会長 小澤紀美子

提案競技実行委員会 委員長 仙田 満

提案競技審査委員会 委員長 和田 章

1. 提案競技実施について

【開催趣旨】公募要項より抜粋

甚大かつ深刻な状態からの復興を急ぐことは当然ですが、しっかりと未来を見据えたより良いまちづくりを進めることが必要です。経済・産業機能の回復も急務ですが、そういった中でも子どもの成育環境という視点が欠落してはなりません。まちの将来は子どもたちに懸かっています。

この国際提案競技による大震災復興プランは、被災された地区に対する“知恵と夢”の支援です。次世代を担う子どもが元気に育つことができるまちをつくるため、子ども達の意見や視点を尊重しながら復興するためのプランやプログラムについて、そのアイデアを世界中から広く求めるものです。

ここで応募された提案は、被災された住民主体によるまちづくりの資料として活用され、日本ユニセフ協会、関係学協会をはじめとする専門家集団がサポートし、速やかな復興、まちづくりの実現への推進力となることが期待されます。

【スケジュール】

公告：5月25日

質疑：6月1日～10日

参加登録：応募期限まで登録可
(当初の登録期間6月1日～24日を変更)

提案書締切：7月15日（カテゴリー4）
8月15日（カテゴリー1、2、3）

【公募要項】 抜粋

9. 提出物

カテゴリーごとに以下に定めた規格以内の紙面に提案をとりまとめてください。

- カテゴリー 1.12 歳以下 (Kids) : A 3 版 (420×294mm) 1 枚
- カテゴリー 2.18 歳以下 (Junior) : A 3 版 (420×294mm) 1 枚
- カテゴリー 3.24 歳以下 (Senior) : A 3 版 (420×294mm) 2 枚以内
- カテゴリー 4.25 歳以上 (Adult) : A 3 版 (420×294mm) 4 枚以内

12. 審査・懸賞

審査委員は、主催・共催・後援団体所属の研究者・実務者（専門家）、被災地の住民および子どもにより構成します。

各審査委員は、提案された地区のうち一つあるいは複数の地区を担当します。

審査委員およびその関係者も、本提案競技に応募できますが、審査担当地区以外に限ります。

第 1 次審査においては、本提案競技の成果を取りまとめる応募提案作品集に掲載する提案作品を選定します。審査委員会により、提案内容に著しく問題があると判断した場合、掲載されないことがあります。

第 2 次審査においては、提案内容により、対象地区毎に Gold（最優秀賞）、Silver（優秀賞）、Bronze（佳作）を選定します。

最優秀賞を受賞された応募者は、年齢（応募カテゴリー）に関係なく、対象地区の復興まちづくり支援のため、マスターアーキテクト、コーディネーター等として、主催者が対象地区の自治体に推薦いたします。

ただし、対象地区により復興に向けての状況や取り組み方針は多様であるため、主催者あるいは対象地区の自治体がアドバイザー就任を保証するものではありません。

2. 応募状況について

東日本大震災復興プラン国際提案競技 応募状況(最終)

カテゴリー	カテゴリー1 (12歳以下)		カテゴリー2 (18歳以下)		カテゴリー3 (24歳以下)		カテゴリー4 (25歳以上)	
	A	B	A	B	A	B	A	B
応募数	20	13	41	7	31	28	26	21
	33		48		59		47	
合計	187							

カテゴリー	カテゴリー1 (12歳以下)		カテゴリー2 (18歳以下)		カテゴリー3 (24歳以下)		カテゴリー4 (25歳以上)	
	A	B	A	B	A	B	A	B
応募人数	34	33	99	9	99	78	62	95
	67		108		177		157	
合計	509							

応募者属性

個人	グループ	参加総数	最大構成員	最高齢	最年少
52	135	509名	16名	75歳	4歳

提案地区の詳細(カテゴリーB)

石巻市	8	仙台市	2	岩沼市	1
南三陸町	8	大船渡市	2	南相馬市	1
気仙沼市	8	名取市	2	松島町	1
陸前高田市	6	大熊町	2	山元町	1
東松島市	5	山田町	2	双葉町	1
女川町	5	大槌町	2	複数地区	4
いわき市	3	千葉県旭市	2		
釜石市	3				

3. 審査経過について

第1回審査会 7月30日(水)午後3時より 東京大学医学部3号館にて
7/15応募締切の 카테고리4について、審査採点。

第2回審査会 8月20日(土)午後1時半より 東京大学医学部3号館にて
8/15応募締切の 카테고리1、2、3について、審査採点。
카테고리4についても継続審査。

※第3回審査会までの間に、審査会に出席できない審査員によるウェブサイト上での審査採点を実施した。

第3回審査会 8月28日(日)午後2時より 仙台市中央市民センターにて
全応募作品(카테고리1、2、3、4)187点について、最終審査。

【実行委員会】(順不同、敬称略)

委員長 : 仙田満 (こども環境学会代表理事、放送大学教授)

副委員長 : 早水研 (日本ユニセフ協会専務理事)、
和田章 (日本建築学会会長、東京工業大学名誉教授)

委員 : 小澤紀美子 (こども環境学会会長、東海大学教授)、織田正昭 (東京大学教官)、汐見稔幸 (白梅学園大学教授)、高橋勝 (横浜国立大学教授)、福岡孝純 (帝京大学教授)、岸裕司 (学校と地域の融合教育研究会副会長)、神谷明宏 (聖徳大学准教授)、木下勇 (千葉大学教授)、木村歩美 (篠原学園専門学校専任講師)、桑原淳司 (日本大学教授) 佐久間治 (宮城大学准教授)、住田正樹 (放送大学教授)、千代章一郎 (広島大学准教授)、松本直司 (名古屋工業大学教授)、矢田努 (愛知産業大学大学院教授)

【審査委員】(順不同、敬称略)

【委員長、副委員長】

委員長 : 和田章 東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長

副委員長 : 早水研 日本ユニセフ協会 専務理事

芦原太郎 芦原太郎建築設計事務所、日本建築家協会会長

小澤紀美子 東海大学教授、東京学芸大学名誉教授、こども環境学会会長

【被災地自治体関係者】

岩手県復興局・副局長 : 平井節生

宮城県震災復興・企画部部長 : 伊藤和彦

福島県保健福祉部・子育て支援担当理事 : 鈴木登三雄

仙台市震災復興本部・本部長 : 山田文雄

【専門委員】

石井賢俊	NIDO インダストリアルデザイン所長
上垣内伸一	ウエガイト建築設計事務所
大村虔一	前宮城大学教授・前副学長
織田 正昭	東京大学大学院 医学系研究科発達医科学教室 教官
葛西潔	葛西潔建築設計事務所
金丸弘美	食環境ジャーナリスト
神谷 明宏	聖徳大学 人文学部児童学科 准教授
河原 啓二	姫路市 医監兼生活審議監
木下 勇	千葉大学 園芸学部 緑地・環境学科 教授
木村 歩美	篠原学園専門学校 専任講師
工藤和美	東洋大学理工学部教授
国広ジョージ	国士舘大学教授
久保寺敏郎	久保寺敏郎都市・建築設計事務所
坂牛卓	東京理科大学工学部教授
佐久間 治	宮城大学 事業構想学部デザイン情報学科 准教授
定行 まり子	日本女子大学 家政学部住居学科 教授
佐藤滋	早稲田大学教授
佐藤昌平	佐藤昌平建築研究所
佐野吉彦	安井建築設計事務所 代表取締役社長
島田 隆道	愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科 教授
志村勉	山形大学大学院教授
進士五十八	東京農業大学名誉教授、前学長
高橋 勝	横浜国立大学 教育人間科学部 教授
玉田 雅己	"NPOバィソナル・バィカルチュラル ろう教育センター 代表
新田新一郎	アトリエ自遊楽校（有）プランニング開（かい） 代表
福岡 孝純	帝京大学 経済学部経営学科 教授
松本 直司	名古屋工業大学 ながれ領域 教授
宮本 照嗣	市民参加まちづくりパートナー
八木幸二	京都女子大学家政学部教授
矢田努	愛知産業大学大学院教授

4. 審査について

【審査の視点】

1. 子どもの視点
2. 子どもの成育環境としてのまちづくりの視点
3. 住民主体によるまちづくりの視点
4. 「知恵と夢」の支援」という視点

【審査項目】

全般的評価

総合性：さまざまな問題点に対して、どれだけ総合的に取り組んでいるか？

独創性：独創的な提案がされているか？

地域性：地域の歴史、産業、社会、生活などの地域性を踏まえた提案か？

実現性：現在の技術面や経済面において、実現性のあるものであるか？

※障がい者などの弱者の視点、省エネルギーやサステナビリティの視点

専門的評価

都市計画・建築計画的側面：都市計画学、建築計画学などの立場からの評価。

教育的側面：学校教育、社会教育などの立場からの評価

福祉的側面：児童福祉、家庭福祉などの立場からの評価

保健・医療的側面：保健、公衆衛生、医療などの立場からの評価

【審査の結果】

応募総数と受賞数						
応募資格 (カテゴリー)	提案対象	応募数		最優秀賞 (Gold)	優秀賞 (Silver)	佳作 (Bronze)
1. 12歳以下	A	20	33	5	7	21
	B	13				
2. 18歳以下	A	41	48	5	7	36
	B	7				
3. 24歳以下	A	31	59	5	9	45
	B	28				
4. 25歳以上	A	26	47	5	12	30
	B	21				
応募総数	A	118	187	20	35	132
	B	69				
	A: 被災地域に共通する提案					
	B: 特定地区に対する提案					

5. 講評

日本はアジアの東側、太平洋の西の端の海に囲まれ、南北に細く連なる美しい島国です。山地が多く 70%以上は森におおわれ、多くの湖があり、100 本以上の急峻な川にはきれいな水が流れ、四季に恵まれ温泉もあり、素晴らしい自然がいっぱいの国です。一方、世界の大きな地震の 10%は日本の近くで起き、毎年のように大きな台風や冬の豪雪に襲われ、何十年に一度、何百年に一度ですが、大きな津波に襲われるなど、自然の猛威も厳しい国です。

この素晴らしい国、そして厳しい自然条件の中に日本人は暮らし、自然への尊敬を持ち、互いに仲良く暮らす人のこころを培ってきました。人は、遠くで起きたこと、遠い昔に起きたことなど、体験していないことへの想いは薄く、今を生きることに一生懸命です。しかし、自然は昔のことを忘れることはなく、同じことを繰り返して起こしています。三陸に大きな津波が襲うのは数十年に一度、仙台の平野に津波が襲うのは約千年に一度といわれますが、これらは間違いなく繰り返されています。

地球の中は熱で溶けた岩でできていて、深いところの高熱の岩は軽く、地用近くの岩は冷めて重くなるため、ヤカンのなかの水のように対流を起こし、地球の表面を複数の地殻が毎年数 cm ずつ移動し、互いに押し合って無理な歪みがたまります。これが何十年、何百年に一度解放されることにより大きな地震が起こるため、地震は繰り返し起こることになります。3月11日のような大地震、大津波は、また来ると思わなければなりません。

大人達に取っても大問題ですが、10年後、20年後に大人になる子ども達にとってはもっと大きな問題です。どこに住んで、どんな家に暮らし、どこでどんな仕事をするか、みんなで考えなければなりません。

津波は「波」と書きますが、台風のときの波とは違い、沖の海面が南北 500km、東西 200km の範囲で、10m 以上も高くなり、この大量の海水が陸に向かって流れてきます。防波堤や防潮堤で防いでも、その高さを超えると、防潮堤の中も外と同じ海水面になってしまい、大量の海水は陸の奥くまで駆け上がる本当に怖い大量の海水です。

今の子どもが大人になり、次の子どもが大人になり、その次の子どもが暮らしている頃、また大きな津波が来るでしょう。今度は、家や車が流されないように、みんなが尊い命を失わないようなまちを作らなければなりません。

人間には「言葉」があり、「絵」や「文章」を書くこともできます。この度の惨事が二度と起きないように、後世の人々、海外の人々に伝えるのも我々の役目です。

この大震災に対する「子どもにやさしい都市復興コンペ」は、子どもから大人まで多くの人々が日本に生き、暮らすことの意味を考え、また多くの被災地の方々のことを、未来を考える機会となりました。それは被災地の皆さんに対する知恵の支援でしたが、同時にいつかは自分たち自身が、その災害に遭うことを考え、みんな

で「安全に子どもたちが元気に育つ町」をどうつくらねばならないのかという提案になりました。これらは作品集となり、後世の人たち、海外の人々に今回の大震災の記憶とともに伝えられる形となりましょう。

子どもたちの提案にはいつも驚かされます。全くすごいアイデアを出してくれます。そして子どもたちは本当に安全で、楽しい子ども時代を過ごしたいという気持ちがあふれています。若者たちのアイデアにもとても良いものがありました。身近の小さな気付きがあります。おそらく多くの若者たちが被災地を見てくれたのでしょう。その時の悲しみや思いが伝わってきます。大人専門家の提案には現実的ですが、美しい環境をつくろう、そして子どもたちが元気に住み続けて欲しいという思いと夢を提案してくれました。

応募していただいた 500 人もの多くの人々のご努力に感謝したいと思います。多くの被災地では復興計画がつくられつつありますが、ぜひそのすぐれた提案を参考にし、また提案者を活用して、子どもたちが元気に育つ町、世界に誇れる美しい地域に復興されることを希望します。

審査委員長 和田 章（東京工業大学名誉教授、日本建築学会会長）

子どもと高齢者という社会的弱者をどう津波から守るか、という視点は全ての応募作品に共通している。海岸線から離れた高台に、公園や学校、福祉・交流施設などを設ける提案が多数を占めるが、その先に、地域全体の有機的な繋がりや世代を超えた交流、子どもの豊かな成長環境をどのように実現するか、が問われる。この点をしっかり押え、具体性のある提案が高評価を得ているのは、今回のコンペの趣旨に沿ったものと言えよう。一方で、「安全の確保」と「沿岸地域の発展」の両立を図ろうとする観点からは、様々なアイデアが提示され、興味が尽きない。

今回、「子どもの視点」（子どもに対する視点、というより、子どもからの視点）と「子ども参加」ももう一つの重要な要素だが、この点が明快な提案は余り多いとはいえない。「子どもにふさわしい社会」、「子どもに優しい町」は、全ての人にとって住みやすく、次代に展望の持てる社会、という点を是非理解して頂きたいと思う。

審査副委員長 早水研（日本ユニセフ協会 専務理事）

審査をしながら先ず感じたことは、子供たちの応募の中に、防災型のまちづくりに対する意識がしっかり芽生えていることです。防潮堤の建設だけでなく、土地利用の工夫によって、津波による被害を最小限にしようというしっかりとした提案がいくつか見受けられました。

大学生以上の応募の中で、特に優れていると思ったものは、津波の高さを表すため町中に建てる表示板に動物をモチーフにした意匠を取り入れ、子供たちの遊び場

としての機能も合体させたもの、まちづくりそのものの提案では、バンク（土盛り）について、防潮堤としての機能の他に、避難路としての機能、地産地消のエネルギーの通路としての機能を意識して、まちづくりの計画に当てはめたもの等がありました。

審査の過程で、私にとっては斬新なアイデアにたくさん触れさせていただき、今後の仕事のヒントに出来るものと考えております。ありがとうございました。

（岩手県復興局副局長 平井節生）

東日本大震災復興プラン国際提案競技「知恵と夢」の支援一を企画されたことも環境学会に心から敬意を表します。また、500人以上の応募された子供からお年寄りまでの方々に深い感謝の意を宮城県から、まずお伝えしたいと思います。

今、宮城県では、多くの被災地の皆さんが仮設住宅に移り住まれるとともに、県や市町の復興計画に基づき、復興に向けて県民、民間団体、市町村、県、国等が一丸となって取り組んでいます。復興のためには、子どもが元気であること、子どもが家庭や地域を明るくすること、そして未来の復興の担い手は子どもたちであることは、とても重要な視点です。

被災地はいまだに深刻な状況であり、復興には様々な制約があります。その意味では今回提案されたプランとは、その緊急性や実現性などの点でギャップがあるかもしれません。しかし、「知恵と夢」を持ってこそ復興は可能になるものと確信します。すべての提案の中に含まれる「こころ」を力に復興に全力で取り組んでいきます。ありがとうございました。

（宮城県震災復興・企画部長 伊藤和彦）

子どもたちの素直な想いと提案、年齢と比較して大人と間違えるような提案書、専門家の視点できちんとした提案……。カテゴリー別にさまざまな提案を見ることの楽しさと審査をする苦しさを味わいました。

特にカテゴリー1の子どもたちの提案は、生活の中での興味や視点が感じられ、感心しました。カテゴリー4になると、行政で直接関わっている人間として、つい、実現性は？事業費は？誰が負担するのか？などと現実的な視点が顔を出し、厳しい審査になったかもしれません。

復興のまちづくりは、被災した人たちだけではなく、みんなの思いを結集することが必要で、さまざまな提案は必ずしも行政のみならず、さまざまな主体の人たちによって実現できると思っています。今回の国際コンペ応募作品の全てが公開されることは、非常に素晴らしいことであり、きっとどこかで実現する種になるのではないのでしょうか、期待しています。

（仙台市震災復興本部 本部長 山田文雄）

6. 今後の活動について

子どもが元気に育つまちづくり 東日本大震災復興プラン提案競技 記念講演会

展示会 期間：9月25日（日）～10月2日（日）
9：00～19：30（土日も開場）
会場：建築博物館（建築会館1F）

プレゼンテーション、作品集披露

9月25日（日）建築会館ホール

13：30～ こども環境学会会長挨拶小澤紀美子

13：45～16：00 受賞者プレゼンテーション

審査講評

審査委員長・日本建築学会会長	和田 章
審査副委員長・日本建築家協会会長	芦原 太郎
審査副委員長・日本ユニセフ協会専務理事	早水 研
審査副委員長・こども環境学会会長	小澤紀美子

16：30～18：00 記念レセプション（建築会館中庭）

以上

※応募作品展示会は、今後、岩手、宮城、福島の各県内において
地元自治体や報道機関のご後援をいただいで開催する予定です。

<Category 1>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.231 土屋有生 (7歳)

タイトル: 楽しくて安全な町!!

提案種別: (A)



No.225 天野壮悠 (9歳)

タイトル: みんなのしく、みんなつながる、元気なまちづくり

提案種別: (A)



No.212 小林果奈 (11歳)

タイトル: 学校から『元気』を育てよう!!

提案種別: (A)



No.39 寺山芽那 (11歳)

タイトル: 四季の堤防

提案種別: (A)



No.169 熊岡笑子 (12歳)・鈴木美卯 (12歳)

タイトル: 子供たちが野菜や果物を一人一種類ずつ作ります。

収穫したらみんなで楽しくいただきます。

提案種別: (B) 石巻市



Silver Prize (優秀賞 7点)

No.49 戸室悠人 (11歳)

タイトル: 公園であそぼう! 笑顔でつながる街づくり
提案種別: (A)



No.73 高塚大夢 (11歳)・市川順一郎 (11歳)・山本華子 (11歳)

チーム名: 高塚グループ
タイトル: 気仙沼市に向けて ー復興プランー
提案種別: (B) 気仙沼市



No.226 天野絢葉 (6歳)

タイトル: うれしい たのしい フルーツのまち
提案種別: (A)



No.53 山崎遥花 (11歳)・今泉星花 (11歳)・竹下恵成 (11歳)

チーム名: 山崎グループ
タイトル: 気仙沼の復興 気仙沼にできないことはない!
提案種別: (B) 気仙沼市



No.65 望月晶 (11歳)

タイトル: ~復興支援プロジェクト~
元気で美しく、自然と共存できる町をつくる
提案種別: (A)



<Category 2>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.243 東城里奈 (18歳)・蕪木茉莉奈 (18歳)
・香曾我部早紀 (18歳)

タイトル: 春夏秋冬 みんなの村
提案種別: (A)



No.23 渡辺晏夏 (15歳)

タイトル: 復興ストーリー

～被災地から世界で活躍する人材育成を目指して～

提案種別: (A)



No.136 佐藤千春 (18歳)・柿崎佳奈子 (18歳)

タイトル: こども農園をつくろう

提案種別: (A)



No.203-4 鎌田菜央 (14歳)

チーム名: 女川第一中学校

タイトル: 今あるものを大切に町作り

提案種別: (B) 女川町



No.138 鈴木菜月 (18歳)・植松真生 (18歳)

チーム名: 大宮 eighteen

タイトル: 子どものためのまちづくり

—子どもが“ひと”と関われる場をつくろう!—

提案種別: (A)



Silver Prize (優秀賞 7点)

No.186 小川 勇樹 (18歳)・内田 大貴 (17歳)

タイトル：～子ども達が楽しむ復興支援プロジェクト～
提案種別：(A)



No.160 横山侑季 (18歳)・石山葉月 (18歳)・深澤阿友美 (18歳)

チーム名：チームほたる
タイトル：子どもたちから復興を！
提案種別：(A)



No.95 岸惇平 (18歳)・塚本健佑 (18歳)

タイトル：ともだちレター
提案種別：(A)



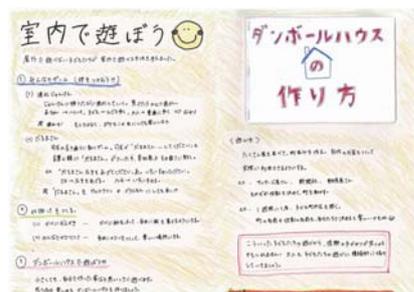
No.148 榎本栄里 (18歳)・本間知美 (18歳)

チーム名：でこぼこフレンズ
タイトル：子どもが元気に育つまちづくり ―知恵と夢の支援―
提案種別：(A)



No.146 荒井 千絵美 (18歳)・高野 友佳 (19歳)

チーム名：ヨーグルト
タイトル：室内で遊ぼう
提案種別：(A)



No.207 佐藤咲希 (18歳)・大森絵理香 (18歳)・遠藤知佳 (18歳)

チーム名：マリンキッズ

タイトル：マリンキッズ

提案種別：(A)



No.145 後藤緑 (18歳)・東野あゆみ (18歳)

タイトル：笑顔が集まる防災公園

提案種別：(A)



<Category 3>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.115 富田正裕・村元萌

チーム名：エム・エム

タイトル：ブレーメンの道しるべ

—動物たちと学ぶ津波の記録—

提案種別：(A)

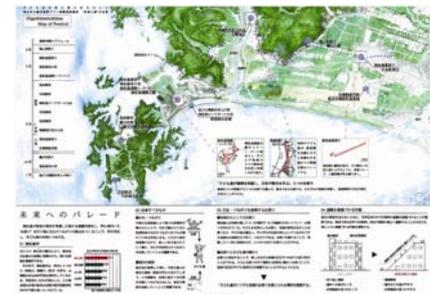


No.44 入江静香・杉本隆典・木村彰宏

チーム名：teamNIT

タイトル：未来へのパレード

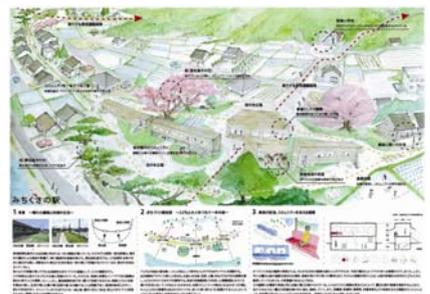
提案種別：(B) 東松島市



No.204 石川翔一・谷英紀

タイトル：みちくさの駅

提案種別：(B) 東松島市



No.64 井上友香理・藤井祐輔・余語悠里佳・石井宏樹
・茂庭竜太・稲葉慧

チーム名：TEAM ジャンゴ鯨

タイトル：遊学路 ～遊びが育つかえりみち～

提案種別：(A)



No.201 高橋優太・志村隆・藤致滋

チーム名：東京都市大学新居研究室 B

タイトル：新しい風景

提案種別：(B) 名取市



Silver Prize (優秀賞 9点)

**No.84 菊地未来・安部絵理香・皆見明良・椎名明日香・鈴木智子
・藤田一真・保田梨花**

チーム名：関東学院大学中津研究室

タイトル：つむぎソラ net

提案種別：(B) 釜石市



No.218

チーム名：名城大学タニダケン+豊橋技術科学大学建築サークル

タイトル：IGUNE で紡がれるまち

子どもたちがつくる、子どもたちのためのシェルター

提案種別：(A)



No.224 小林和

タイトル：学校のみち、遊ぶみち。

提案種別：(A)



No.52 斎藤純平・河田豊・伊藤公人

チーム名：UgaiYo

タイトル：Creative Yard

提案種別：(A)



No.214 鈴木恵

タイトル：子どもが元気な街づくり 音あそびプロジェクト

音楽で街を元気に

提案種別：(A)

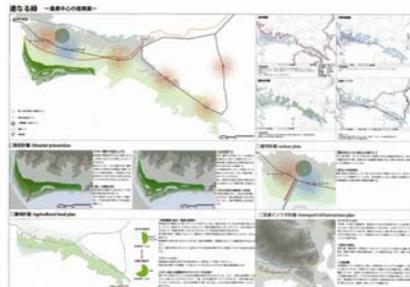


No.216 酒井 隆文・杉山 俊太・永井 沙知

チーム名：東京都市大学 新居研究室 A

タイトル：連なる緑 ―農業中心の復興案―

提案種別：(B) 陸前高田市



No.45 彦坂雄三・深澤睦美・田中雄基

チーム名：team U

タイトル：過去のうつわと未来のハコ

提案種別：(B) 石巻市



No.190 小久保亮佑

タイトル：Canvas Ring

人を映し出すキャンバス／場所と人をつなぎとめるリング

提案種別：(B) 石巻市

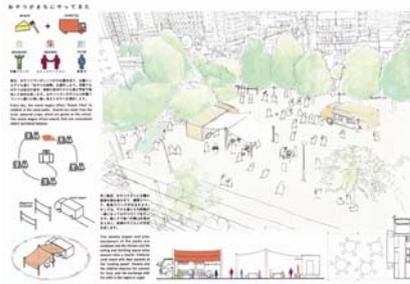


No.33 小池太輔・水落裕樹・木戸大祐・松尾彩花

チーム名：TOIZ

タイトル：おやつがまちにやってきた

提案種別：(A)



<Category 4>

Gold Prize (最優秀賞 5点)

No.106 岡田暁子・岡田慎

チーム名：Team koala

タイトル：ふるさとを失った子どもたちに、まちづくり参画で元気を
／子どもの元気・成長で新たなふるさとの復興を

提案種別：(A)



No.28 松野高久・佐々木省悟・石原智・久住郁子

・濱田絢子・佐藤哲士

タイトル：子どもからお年寄りまでみんなが支えあい、震災復興の
象徴として世界に誇るまち「陸前高田市」の提案

提案種別：(B) 陸前高田市



No.34 松井章一郎・鈴木直樹・荒井拓州・小池秋彦・三好史晃

・蘆田あす佳

チーム名：三菱地所設計

タイトル：小さなタネ、大きな未来

提案種別：(A)



No.18 古藤田茂・町田潤哉・藤浪健二・中村諭樹生・仙田有

タイトル：東松島市

——景観資源・観光資源を生かしたまちづくりによる
地域復興・コミュニティ復元に向けた提案

提案種別：(B) 東松島市



No.124 石原健也・塩原貴洋・伊原武志・遠藤貴大・近藤亜美

・大野宏己・國島真吾・永田信也・星野ミイナ

・森アオイ・中野正也・齊藤大介・内藤賢二

チーム名：プレイグラウンド・サポーターズ

タイトル：海と生きる、川と生きる、森と生きる
—宮城県南三陸町志津川地区復興プラン—
50年後の世界遺産を目指して

提案種別：(B) 南三陸町



Silver Prize (優秀賞 12点)

No.15 松木譲二・小林元・黒川一史・野村朋広・仙田考

タイトル：大船渡市のみんなが元気になる‘故郷の地’を再建する

提案種別：(B) 大船渡市



No.77 小野淳・星龍登・西田正人・三谷勇太

・秋山隆紀・高橋祐平

チーム名：JR 東日本建築設計事務所

タイトル：イーバンク いつも遊ぶ道。いつか逃げる道

提案種別：(B) 大船渡市

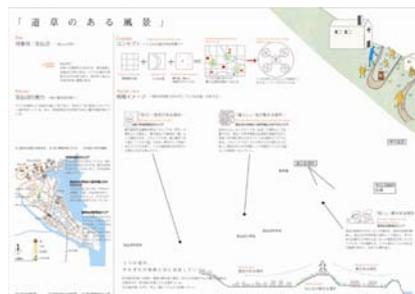


No.89 宮永賛紀・佐藤貴信・杉木勇太・劉超

チーム名：安井建築設計事務所 A チーム

タイトル：「道草のある風景」

提案種別：(B) 気仙沼市



No.80 片山正樹・白井健太郎・久保田恭代

チーム名：KSKA

タイトル：子どもが元気に育つまちづくり「こどもと緑の回廊」



No.19 佐藤文昭・相波幸治・藤井公平・宇佐美洋平

・長谷川一久・佐々木千春

タイトル："ひまわりプロジェクト"

黄色い波で津波と放射能を押し返そう

提案種別：(B) 大熊町

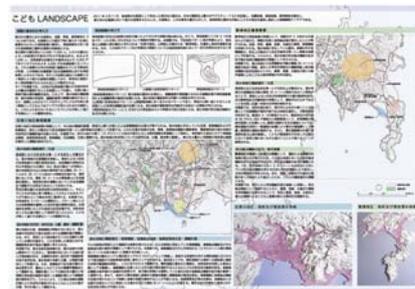


No.17 佐藤栄治・加納一真・黒澤麻里・西城祐基
 ・酒井智季・佐々木秀昭・津釜加奈恵・藤原誠志

チーム名：宇都宮大学建築計画研究室

タイトル：こども LANDSCAPE

提案種別：(B) 南三陸町



No.94 中村文香・保田千晶・筆野望・瀬崎康平・馬場勇輝

チーム名：安井建築設計事務所 B チーム

タイトル：丘ものがたり -こどもと丘がはぐくむまち-

提案種別：(B) 岩沼市

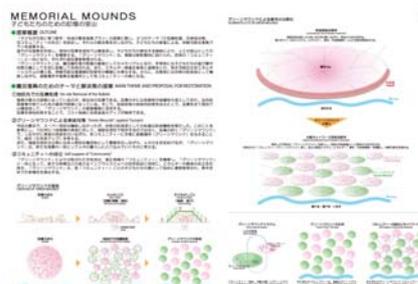


No.26 秋江康弘

タイトル：MEMORIAL MOUNDS

-子どもたちのための記憶の里山-

提案種別：(A)



No.40 村尾修・星知世・古徳風空・川崎拓郎

チーム名：筑波大学 都市防災復興デザイン研究室

タイトル："記憶の街と夢の結晶プロジェクト"

-被災者と子どもたちのための7つの物語-

提案種別：(A)



No.159 三笠友洋・成田佑弥・谷口翔・大西由梨佳

・宮脇毅・武富俊太・重村力

チーム名：神奈川大学重村・三笠建築デザイン研究室

タイトル：Re: base Network

半島ユニットコアと尾根道ネットワークの提案

提案種別：(B) 陸前高田市、釜石市、大船渡市、大槌町、山田町



No.14 鎌田亮・胡内健一・井上宗則・許斐信亮

チーム名：ヤング日本工営（YNK）

タイトル：通学路を軸としたまちづくり

提案種別：(A)



No.109 水野卓・岩間和美・瀬野智成・長場伸介

・平野亜紀子・永村綾子

チーム名：株式会社URリンケージ

タイトル：にじいろプロジェクト

提案種別：(A)



平成23年9月7日
山形大学

「イノベーション・ジャパン2011 - 大学見本市」に出展します。

大学の研究シーズと産業界の技術ニーズを結びつける国内最大の
マッチングイベントで研究成果を発表します。

日時：平成23年9月21日（水）～22日（木）

[9月21日（水）9:30～17:30、9月22日（木）10:00～17:00]

場所：東京国際フォーラム（東京・有楽町）

出展者：

○栗原正人（理学部物質生命化学科 教授）

『室温焼結性銀ナノ微粒子と有機エレクトロニクスへの展開』

プリンテッドエレクトロニクスによる電子素子開発やプラズモニクスによる太陽電池素子開発などの用途が期待されています。

○古川英光（大学院理工学研究科機械システム工学分野 准教授）

『機械特性の優れたSoft&Wetマテリアルの製造・評価装置』

ヘルスケア製品、細胞培養関連製品や軸受、シール材等への用途にも期待されている技術です。

◆「イノベーション・ジャパン2011 - 大学見本市」は、文部科学省と経済産業省が連携して、大学などの優れた研究成果を一堂に集め、産業界に広く紹介することで産学のマッチングを促進し、その研究成果を社会へ還元することを目的としています。

◆8回目を迎える今年度は、約320件に及ぶ大学などの研究成果の発表・展示と新技術説明会（口頭発表）によって行います。

（お問い合わせ）

山形大学総務部広報室

（TEL）023-628-4005

プレス通知資料（概要）

平成23年9月7日
山形大学

1. 大学コンソーシアムやまがた『やまがた夜話』（9月分） （テーマ）『山形の魅力再発見 新山形学～健やかな生活編～』

- ◆日時:平成23年9月14日(水) 18:30～19:30
「塩分と健康」
今田 恒夫 (山形大学医学部 准教授)
 - ◆日時:平成23年9月21日(水) 18:30～19:30
「ライフスタイルと脳と体の健康」
加藤 守匡 氏 (山形県立米沢女子短期大学 准教授)
 - ◆日時:平成23年9月28日(水) 18:30～19:30
「育てて美味しく食べよう 楽しい野菜づくり」
高橋 享 氏 (山形県立農業大学校 教授)
 - ◆日時:平成23年10月5日(水) 18:30～19:30
「健やかな生活のための栄養学」
榎本 健二 (山形大学地域教育文化学部 講師)
- 場 所: ゆうキャンパス・ステーション(山形市:山形むらきさわビル1階)
対 象: 高校生・学生・一般市民 50名

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ: 大学コンソーシアムやまがた事務局
(TEL)023-628-4842

2. 人文学部公開講座『ポスト震災を考えるーこれからの社会のあり方ー』

(概要)◇東日本大震災がもたらした甚大な被害の爪痕が深く残っている中、社会のあらゆる分野で有り様を見直す動きが始まっています。

◇しかし、問題の範囲は広く、複雑であり、複合的な視点から考えることが必要です。

◇本講座では、地域コミュニティ、福祉、環境、エネルギーの四つの視点を中心に、いま何が問題になっているのか解説します。

◇その上で、望ましい社会のあり方の提言を行います。一市民としての目線から、わかりやすくお伝えします。

日 時:平成23年9月27日(火)～10月25日(火) 毎週火曜日 計5回
18:30～20:10

場 所: 山形大学人文学部 1 階 104教室(山形市・小白川キャンパス)

対 象: 一般市民、大学生、高校生 定員 30 名

受講料: 一般のみ 2,000円(大学生、高校生は無料)

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ: 山形大学人文学部事務室
(TEL)023-628-4203

3. 有機エレクトロニクス研究センター『開所記念式典・記念講演会』

(概要)◇山形大学工学部が創立100周年を迎えた平成22年12月末、工学部キャンパス内に新たに5階建て約5,700平方メートルの有機エレクトロニクス研究センターが竣工しました。

◇新しい100年に向け、有機エレクトロニクスの世界的研究拠点形成を目指し、世界から集結した卓越研究者からなるドリームチームを中心に研究を進めています。

◇そのオープンを記念して、『開所記念式典・記念講演会』を挙行政いたします。

日 時:平成23年9月30日(金) 10:30~18:00

場 所:山形大学工学部、上杉城史苑、伝国の杜(米沢市)

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:山形大学有機エレクトロニクス研究センター 研究プロジェクト支援室

(TEL)0238-26-3590

4. 国際事業化研究センターまちづくり談話会、もっとみらいコンソーシアム研究会 『中国における事業展開と資金調達』

(概要)◇グローバル化の急速な伸長と国内市場の停滞・規模縮小により、日本企業は世界を視野に事業を展開することが欠かせなくなっています。

◇昨年、世界第2位の経済規模まで成長をした「中国」は、近い将来にアメリカを抜いて世界第1位の経済大国になることが確実視されています。

◇日本から中国に進出する企業が相次ぐなか、中国に事業を展開する目的は何であるのか、販路開拓や労務管理等の課題はなにか、資金調達の方法はどのようになっているのかということ、事例や日本政策投資銀行の取り組みを紹介しながら講演します。

日 時:平成23年9月30日(金) 14:00~15:30

場 所:山形大学工学部街中サテライト(米沢市)

講 師:株式会社日本政策投資銀行 国際統括部 中国チーム課長 上嶋 英夫氏

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:“もっとみらい”コンソーシアム事務局

(TEL)0238-26-3622

5. 大学コンソーシアムやまがた『正解への道標～ミチシルベ～大学生による大学受験講座！』

(概要)◇大学に入るとは「人生の新たなスタート地点に立つ」ことだと、講師である岡田瑞央くんは言います。

◇岡田くんは、この大学受験講義を通して、受験生に夢や希望のある授業を展開しようと思っています。

◇この企画の最終的な目標は、「大学合格を勝ち得る」のみではなく「自分の『夢』に向かってひたむきに進んでいけるパワーを与えてあげる」こと。この講義を聞いてくれた方々が自分の夢を再確認して将来の自分と対峙するようになってくれれば幸いです。

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

日 時:平成23年10月2日(日) 9:00～

場 所:ゆうキャンパス・ステーション(山形市:山形むらきさわビル1階)

講座内容:センター試験 数学+α

講 師:岡田瑞央(山形大学医学部2年)

対 象:大学受験生

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:大学コンソーシアムやまがた事務局

(TEL)023-628-4842

6. 特別プロジェクト「井上ひさしの東北」公開講座『井上ひさしの世界』

(概要)◇昨年4月、惜しまれつつ世を去った、山形県川西町出身の作家・劇作家井上ひさしさんは、東北を主題にした作品を数多く執筆し、川西町や仙台市などを拠点に東北の地で多彩な活動を行い、山形そして東北をこよなく愛し、日本の、世界の中の東北のあり方を世に問い続けました。

◇この特別プロジェクトは、井上ひさしさんの膨大な作品群や偉大な活動をさまざまな角度から取り上げ、東北への思いを明らかにし、そこから東北に生きていく私たちの指針を得たい、そんな思いで実施します。

10月12日(水) 熊谷眞一氏((株)シベール特別顧問)

「井上ひさしと私の物語(99%の真実)」

10月19日(水) 山本陽史 (山形大学基盤教育院 教授)

「井上ひさしー日本語を生きる」

10月26日(水) 阿部宏慈 (山形大学人文学部 教授)

「井上ひさしの青春」

11月 2日(水) 森岡卓司 (山形大学人文学部 准教授)

と き:平成23年10月12日(水)～11月2日(水)

毎週水曜日 全4回 各回18:30～19:30

ところ:大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

(山形市香澄町 むらきさわビル1F)

定 員:各回とも40名 聴講料は無料です。

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:山形大学渉外部社会連携・図書・情報課

(TEL)023-628-4016

7. 附属博物館公開講座『掛軸のい・ろ・は～表装から画題まで～』

(概要)◇掛軸の保存方法や取り扱い方、掛軸の鑑賞の仕方、そして描きあげた画家達についての講義を通し、様々な角度から「掛軸」の魅力を探ります。

◇講師にはベテランの表具師を招き、表装の基礎知識や簡単な実演のほか、日本画を専門にする講師からは、作者の思いもよらぬエピソードが語られるかもしれません。

◇お宅に眠っている掛軸を取り出して愛でていただけるよう、展覧会などでの軸物の鑑賞がもっと楽しくなりますようにお手伝いいたします。

日 時:平成23年10月15日(土)～29日(土) 13:30～17:00

場 所:山形大学附属博物館(山形市・小白川キャンパス)

募集人員:一般市民、大学生、高校生 30名

受講料:2,000円(資料代含む)

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:山形大学附属博物館

(TEL)023-628-4930

8. これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので開催がせまっているイベント

当日の取材をよろしく願いいたします。

○Y-MOTネットワーク『イブニングサロン in YONEZAWA』

日 時:平成23年9月10日(土) 18:00～19:30

場 所:山形大学工学部街中サテライト(米沢市・大沼デパート前)

参加料:1,000円(資料代・飲み物代)

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:Y-MOTネットワーク(渡邊 毅)

山形大学国際事業化研究センター街中キャンパス内

(TEL) 0238-40-0761

○農学部 ひらめき☆ときめきサイエンス『生物の多様性を考える

—土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用—』

日 時:平成23年10月15日(土) 9:00～16:10

場 所:山形大学農学部3号館(鶴岡市・農学部キャンパス)

対 象:高校生20名

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

問い合わせ:山形大学農学部企画広報室

(TEL)0235-28-2910



やまがた夜話

テーマ 山形の魅力再発見 新山形学～健やかな生活編～

9月14日(水)

18:30~19:30

「塩分と健康」

今田 恒夫氏 (山形大学医学部・准教授)

9月21日(水)

18:30~19:30

「ライフスタイルと脳と体の健康」

加藤 守匡氏 (山形県立米沢女子短期大学・准教授)

9月28日(水)

18:30~19:30

「育てて美味しく食べよう 楽しい野菜づくり」

高橋 享氏 (山形県立農業大学校・教授)

10月5日(水)

18:30~19:30

「健やかな生活のための栄養学」

楠本 健二氏 (山形大学地域教育文化学部・講師)

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分。

主催 大学コンソーシアムやまがた

お申込 電話又は、チラシ裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX、郵送、メール等で下記宛お申し込みください。

対象 高校生・学生・一般市民

入場無料 定員:50名



お申込み・お問合せ



大学コンソーシアムやまがた
ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階
TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820
E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

～スマイル・トレード10%支援～



やまがた夜話

山形の魅力再発見 新山形学～健やかな生活編～

参加申込書

必要事項を明記の上、下記宛 FAX・郵送または E-mail にてお申し込み下さい。
みなさんのご参加をお待ちしております。

申込締切日：それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加日を○で囲んでください。
	平成23年 9月 14日(水) 講師：今田 恒夫 氏
	平成23年 9月 21日(水) 講師：加藤 守匡 氏
	平成23年 9月 28日(水) 講師：高橋 享 氏
平成23年10月 5日(水) 講師：楠本 健二 氏	
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	学生の方は学校名を記入

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。
この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に
使用するとともに、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

お申込み・お問合せ先

 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ポスト震災を考える

これからの社会のあり方

9月27日(火)
もし行政がマヒしたら
— 震災後の社会を考える —
人文学部 教授 高橋 和

10月4日(火)
地域福祉と地域経済
人文学部 准教授 下平裕之

10月11日(火)
ペットボトル・リサイクルからみた循環型社会
人文学部 教授 國方敬司

10月18日(火)
なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか
人文学部 准教授 松本邦彦

10月25日(火)
＜パネルディスカッション＞
これからの社会のあり方
人文学部 教授 北川 忠明
國方敬司・高橋 和・下平裕之・松本邦彦

日 時：平成23年9月27日(火)～10月25日(火)
午後6時30分～8時10分 [火曜日 計5回]

場 所：山形大学人文学部1階 104教室
対 象：一般市民・大学生・高校生 定員30名
受 講 料：一般 2,000円

大学生・高校生は無料

募集期間：平成23年9月1日(木)～9月21日(水)

■お問い合わせ先

山形大学人文学部事務室
電話：023-628-4203
E-mail：jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



- 募集人員** ◆ 一般市民・大学生・高校生 30名
- 募集期間** ◆ 平成23年9月1日(木)～9月21日(水)
- 受講料** ◆ 2,000円(大学生・高校生は無料)
- お申し込み方法** ◆ 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- お問い合わせ先** ◆ 〒990-8560
山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務室
TEL:023-628-4203
E-mail:jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 会場案内** ◆ 山形大学人文学部1階 104教室
大学正門を入れて正面の建物です。
受付は人文学部正面玄関にて行います。
- その他** ◆ **【公共交通機関ご利用のお願い】**
現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。

ポスト震災を考える

これからの社会のあり方

講座の概要

東日本大震災がもたらした甚大な被害は、誰もが体験したことのないほど痛ましいものでした。被災地では今なお、震災の爪痕が深く残っています。そうした状況の中、社会のあらゆる分野で、日本社会の有り様を見直す動きが始まっています。これからの社会はどうあるべきか？

私たちはこの問題を避けて通ることができません。しかし、問題の範囲は広く、複雑であり、複合的な視点から考えることが必要です。そこで本講座では、日々の生活に深く関わる四つの視点—地域コミュニティ、福祉、環境、エネルギー—を中心に、いま何が問題になっているのか解説します。その上で、望ましい社会のあり方とはどのようなものか、提言を行います。—市民としての目線から、身近な例を交え、わかりやすくお伝えします。

第1回目

もし行政がマヒしたら — 震災後の社会を考える —

人文学部 教授 **高橋 和**



3月11日の東北・北関東を襲った地震と津波はこの地域に未曾有の被害をもたらしました。その直後、人々はどのように行動したのでしょうか？行政機関がマヒしている状況のなかで、どのようにして社会の秩序を維持することができたのでしょうか。震災後の状況から、何が必要であったのか、何が不足していたのか、そして今後の社会のあり方、とりわけ自立的な社会をどのように創っていくのかについて考えます。

〈担当者の専門〉 国際関係論、EUの国境を越える自治体協力に関する研究

第2回目

地域福祉と地域経済

人文学部 准教授 **下平 裕之**



東北地方は全国に比べ人口減少率が大きく高齢化率も増加傾向にあり、これに伴い雇用状況の悪化や地域コミュニティの崩壊が進んでいます。今回の東日本大震災は、このような東北地方の厳しい現状がもたらす社会的衰退をさらに加速する危険性があります。このような状況下で地域においてこれからも安心して生活していくために、どのように福祉の充実を図り、経済を活性化していくかという問題を考えたいと思います。

〈担当者の専門〉 経済学史・地域資源を活用した地域活性化に関する研究

第3回目

ペットボトル・リサイクルからみた循環型社会

人文学部 教授 **國方 敬司**



循環型社会の形成が必要であることには、誰も異議はないと思われます。しかし、循環型社会とはどのような社会であるのか、といった点にまで考えていくと、必ずしもその内実について十分理解が及んでいるとはいえないのが現状のようです。今回は、リサイクル容器とリターナブル容器との比較を通して、現在のリサイクル政策の問題点を明らかにし、これからの社会ではどのようなあり方が望ましいのか、また自分たちにできることは何なのかを提案します。

〈担当者の専門〉 環境経済学とイギリス産業革命・農業革命史

第4回目

なぜ戦後日本人は原発を信じてきたのか



人文学部 准教授 松本邦彦

戦後日本人は核エネルギーを希望の火としてきましたが、「3.11」はそこに大きな疑問符を付けることになりました。しかし日本人の「核」肯定論は非常に強固であり、「進歩と発展」に対して本来は懐疑的であるはずの「保守」の人々が推進派となってきたほどです。自分の隣にあるのは困るが、遠くにあるのはかまわないという意識だけではこの状況は説明できません。戦後日本のエネルギー政策を国内の思想状況に位置づけながら、「3.11」後を展望したいと思えます。

〈担当者の専門〉 日本外交と政治について

10月18日 火

第5回目

〈パネルディスカッション〉
これからの社会のあり方



人文学部 教授 北川忠明

國方敬司・高橋 和・下平裕之・松本邦彦

東日本大震災は、中央と地方の関係、エネルギー政策、経済・産業構造等をはじめ、第二次世界大戦後日本の政治・経済・社会の全体的なモデル・チェンジを迫る大きな節目となるものです。このパネルディスカッションでは、本公開講座の4人の講師をパネリストとして、自立・分散型の地域社会の創生という観点から提言を行い、参加者の皆さんとともに、ポスト震災社会の諸課題をめぐって議論します。

〈担当者の専門〉 政治思想、とくにフランス共和主義思想の研究

10月25日 火

「い」から切り離してお出してください。

02		払込取扱票										通常払込料金 加入者負担									
口座記号番号												金額	千	百	十	万	千	百	十	円	
0 2 2 6 0 7												9 2 4 7 8						2	0	0	0
加入者名 国立大学法人山形大学												料金	備考								
※「ポスト震災を考えるーこれからの社会のあり方」申込書 ※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。(人文学部) ○職業をお書きください。() ○年齢をお書きください。() ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方は ご記入ください。() ※個人情報の利用について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、 第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー 棟のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)												日附印									
おとこ(郵便番号)												様									
※おなまえ												日附印									
(電話番号)												日附印									
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)												日附印									
これより下部には何も記入しないでください。												日附印									

切り取らないでお出してください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号	0 2 2 6 0 7	通常払込 料金加入 者負担						
	9 2 4 7 8							
加入者名	国立大学法人山形大学							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
					2	0	0	0
おなまえ	※							
ご依頼人	様							
料金	日附印							
備考								

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押しつけてください。

開所記念式典 記念講演会

山形大学工学部が創立100周年を迎えた2010年12月末、工学部キャンパス内に新たに5階建て約5700平方メートルの有機エレクトロニクス研究センターが竣工しました。新しい100年に向け、有機エレクトロニクスの世界的研究拠点形成を目指し、世界から集結した卓越研究者からなるドリームチームを中心に研究を進めています。

日時

平成23年 **9月30日(金)** 10:30~18:00

参加費

無料

午前 10時30分~ 開所記念式典

【会場：山形大学工学部 大示範教室】

10:30~10:35	挨拶	山形大学長
10:35~10:45	式辞	山形大学工学部長
10:45~11:15	来賓祝辞	文部科学省 高等教育局長 磯田 文雄 氏 衆議院議員 近藤 洋介 氏 山形県知事 吉村美栄子 氏 米沢市長 安部三十郎 氏

午前11時30分~ テープカット・内覧会

【会場：有機エレクトロニクス研究センター】

※内覧会終了後、各自でポスターセッション会場までお越し下さい
※内覧会では、低炭素研究ネットワークのサテライト拠点である山形大学の「ナノ加工技術を基盤としたスマート有機デバイス研究拠点」のオープンラボを兼ね、低炭素研究ネットワークの研究設備を公開します

午後12時30分~ ポスターセッション・ 有機エレクトロニクス製品、試作品展示

【会場：上杉城史苑】

※ポスターセッション会場では、軽食を準備しています
※出展機関は案内URLをご覧ください



●お申込方法は裏面をご覧ください（事前のお申込が必要です）

午後14時00分~ 記念講演会

【会場：伝国の杜】

14:00~14:05	開会挨拶	山形大学 理事・副学長
14:05~14:15	祝辞	科学技術振興機構 理事長 北澤 宏一 氏
14:15~14:30	有機エレクトロニクス研究センター概要・ドリームチーム紹介	有機エレクトロニクス研究センター長 大場 好弘

14:30~15:15 記念講演

山形大学の有機エレクトロニクス
国際研究拠点化へ期待する

カリフォルニア大学サンタバーバラ校 教授
山形大学 特任教授 中村 修二 氏

15:15~15:45 特別講演

“Progress in organic heterojunction devices”

ロチェスター大学 教授
山形大学 連携卓越研究教授 C.W. Tang 氏

15:45~16:15 特別講演

“Recent Progress of Organic Solar Cell in Tandem Configurations”

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 教授
山形大学 連携卓越研究教授 Y. Yang 氏

16:15~16:30 休憩

16:30~18:00 研究講演

“Organic Photovoltaic Solar Cells”

山形大学 特別連携卓越研究教授 N.S.Sariciftci

有機トランジスタの研究動向と応用展開

山形大学 卓越研究教授 時任 静士

有機EL照明の最近の進展

山形大学 卓越研究教授 城戸 淳二

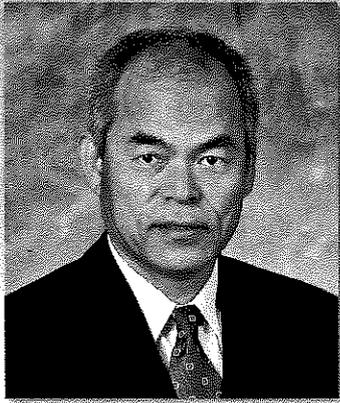
18:00 閉会

※記念講演会の開演前・休憩時間に有機エレクトロニクス研究センターのプロモーションビデオを上映します

右上の有機ELシャンデリアは(財)山形県産業技術振興機構の所有物です

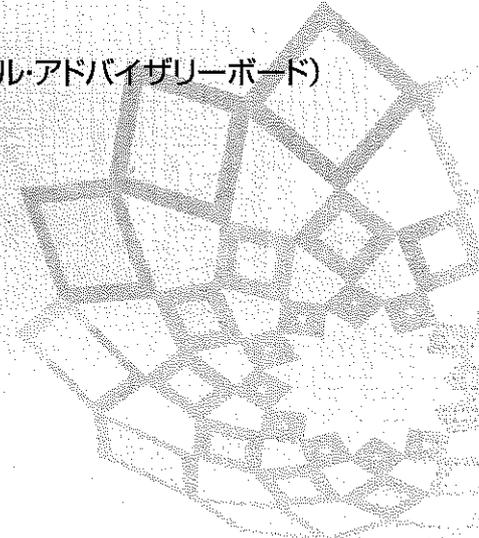
主催：国立大学法人山形大学 共催：独立行政法人科学技術振興機構
後援：(財)山形県産業技術振興機構・米沢市・(社)米沢工業会

招待講演者紹介 (有機エレクトロニクス研究センター インターナショナル・アドバイザリーボード)



カリフォルニア大学サンタバーバラ校 教授
山形大学 特任教授
中村 修二氏

窒化物系材料を使用した発光デバイスの研究開発に先駆的に取り組み、1993年に青色、1995年に緑色のPN接合型高輝度発光ダイオードの製品化に世界で初めて成功。



地域卓越研究者戦略的結集プログラム (独立行政法人科学技術振興機構)
卓越研究教授群 (ドリームチーム)



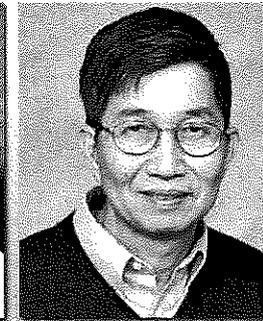
山形大学
卓越研究教授
城戸 淳二



山形大学
卓越研究教授
時任 静士



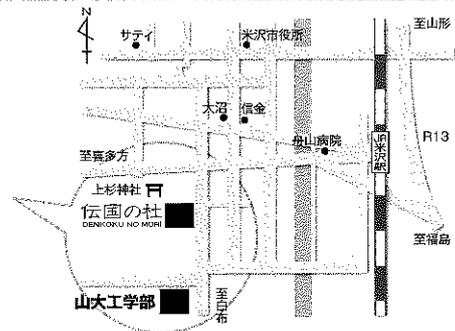
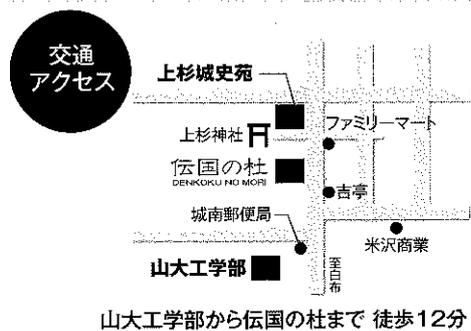
山形大学
特別連携卓越研究教授
N.S.サリチフチ
(ヨハネス・ケプラー大学)



山形大学
連携卓越研究教授
G.W.タン
(ロチェスター大学)



山形大学
連携卓越研究教授
Y.ヤン
(カリフォルニア大学サンディエゴ校)



◆JR米沢駅から2km 上杉神社隣接
[タクシーで約10分]
[市民バス、米沢市街地循環 (200円)
上杉神社前下車]
※駐車場が大変混雑する恐れがあります。
なるべく公共機関をご利用ください。

【申込受付期間】平成23年7月30日(土)~9月26日(月) 定員となり次第、受付終了とさせていただきます。

↓こちらからお申込みください

申込URL

<http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/info/form110930/form-1.php>

上記URLからのお申し込みが出来ない方は、FAXにてご連絡ください。

▶携帯からの申込みはこちら



参加申込書 9月30日 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター「開所記念式典・記念講演会」

参加申込書	所属名	部署	TEL
	氏名	役職	FAX
	フリガナ	所在地	E-mail
	名		

●申込にチェック……開所記念式典 内覧会 ポスターセッション 記念講演会

— 個人情報取り扱いについて — ご登録頂いた情報は、参加者の確認にのみ利用させていただきます。

●お問い合わせ先: 山形大学有機エレクトロニクス研究センター 研究プロジェクト支援室

TEL/0238-26-3590 FAX/0238-26-3240 E-mail/kouenkai@yz.yamagata-u.ac.jp

*この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



【共催】

国際事業化研究センターまちづくり談話会
もっとみらいコンソーシアム研究会

中国における事業展開と資金調達

株式会社日本政策投資銀行 上嶋 英夫氏

■国際統括部 中国チーム課長

日時 : 9月30日(金) 14:00~15:30
場所 : ものづくり・ひとづくりキャンパス (街中サテライト)

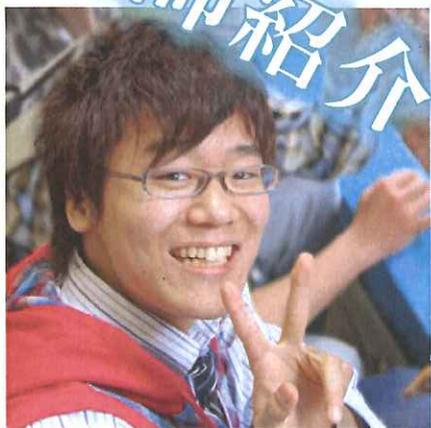
グローバル化の急速な伸長と国内市場の停滞・規模縮小により、日本企業はいまや世界を視野に事業を展開することが欠かせなくなっています。昨年、日本を抜いて世界第2位の経済規模にまで成長をした隣国「中国」は、これからも引き続き高い経済成長率を維持することが見込まれており、近い将来にアメリカを抜いて世界第1位の経済大国になることが確実視されています。

経済・社会環境の変化の影響を受け、日本から中国に進出する企業が相次ぐなかで、中国に事業展開をする目的は何であるのか、販路開拓や労務管理等の課題はなにか、資金調達の方法はどのようになっているのかということ、既に進出している日系企業の事例や株式会社日本政策投資銀行の取り組みを紹介しながら講演します。

申し込み先: “もっとみらい”コンソーシアム事務局(電話:0238-26-3622)

正解への道標～ミチシルベ～ 大学生による大学受験講座！

講師紹介



山形大学医学部
所属の学生。塾講
師、予備校の
チューターの経験
を持ち、現在も家
庭教師で数学と化
学の指導にあたっ
ている。趣味は映
画観賞、音楽鑑賞、
スポーツ全般、
WEBデザイン。



日程:2011年10月2日(日)9:00～
場所:ゆうキャンパスステーション
(ファミマ山形駅前隣)
講座内容:センター試験数学+α
対象:大学受験生

☆お申込み・お問い合わせ☆

山形大学 岡田瑞央

電話:080-1853-7857

メール:okaju1115@docomo.ne.jp



ゆうキャンパス

大学コンソーシアムやまがた

山形大学特別プロジェクト「井上ひさしの東北」
2011年度公開講座

「井上ひさしの世界」 受講生募集

- | | | | |
|-----------|------|--------------|--------------------|
| 10月12日(水) | 熊谷真一 | 株式会社シベール特別顧問 | 井上ひさしと私の物語(99%の真実) |
| 10月19日(水) | 山本陽史 | 山形大学基盤教育院教授 | 井上ひさしー日本語を生きる |
| 10月26日(水) | 阿部宏慈 | 山形大学人文学部教授 | 井上ひさしの青春 |
| 11月 2日(水) | 森岡卓司 | 山形大学人文学部准教授 | 文学史の中の井上ひさし |

と き：2011年10月12日(水)～11月2日(水)
毎週水曜日 全4回 各回18:30～19:30
ところ：大学コンソーシアムやまがた
ゆうキャンパス・ステーション (場所は下記地図参照)
電話 023-628-4842

聴講料：無料

定員：各回とも40名

- ※1回ごとの聴講もできます。
- ※どなたでも受講いただけます。
- ※事前に予約された方を優先しますが、定員に余裕があれば当日予約なくお越しになっても聴講できます。



お問合せ・お申し込み：

山形大学渉外部社会連携・図書・情報課

電話 023-628-4016

FAX 023-628-4849

電子メール k-tojyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※お申し込みの際はお名前・聴講希望日をお知らせください。

二〇二一年度

山形大学附属博物館公開講座

掛軸のい・ら・は

～表装から画題まで～



杉浦雲溪／高砂図

主催／山形大学附属博物館

募集人員

一般市民、大学生、高校生 **30**名

受講料

2,000円 (資料代含む)

申込期間

9月12日(月) ~ 10月14日(金)

申込方法

下の「払込取扱票」に記入の上、郵便局で振り込みの手続きをして下さい。
通信欄に職業、年齢の記入をお願いします。先着順に受け付け、受講申込受付証をお送りします。下記の博物館事務室（小白川図書館3階）に直接ご来館の上、お申し込みいただくこともできます。

問い合わせ先

山形大学附属博物館

990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL/FAX **023-628-4930**

E-mail hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ここから切り離して郵便局にお出しく下さい。

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙

3万円以上
貼 付

印

この場所には、何も記載しないでください。

掛軸のい・ろ・は

山形大学附属博物館には郷土画家の作品を中心に40点の軸物が所蔵されています。平成23年度の特別展では、軸物の中から選りすぐりの逸品を展示する企画を考えています。

そこで本講座では特別展と連動し、掛軸の保存方法や取り扱い方、掛軸の鑑賞の仕方、そして特別展に並ぶ作品を描きあげた画家達についての講義を通し、様々な角度から「掛軸」の魅力を探っていくことを目的としています。

講師にはベテランの表具師の方をお招きし、普段あまり気にとめることのない表装の基礎知識や簡単な実演のほか、日本画を専門にする講師の方々からは、作者の思いもよらぬエピソードが語られるやもしれません。

受講後、受講者の方々が自宅に眠っている掛軸を取り出して愛でていただけるよう、また、各種展覧会で軸物の鑑賞がもっと楽しくなりますよう、少しでもお手伝いできれば幸いです。

第1回

10/15(土)

13:30~15:10

「掛軸を楽しむ」

講師/山形大学基盤教育院 講師

佐藤 琴

15:20~17:00

「長谷川コレクションについて」

講師/山形美術館 主任学芸員

月本 寿彦

第2回

10/22(土)

13:30~15:10

「祝賀の掛軸 -高砂図を中心として-」

講師/山形大学基盤教育院 講師

佐藤 琴

15:20~17:00

「掛軸になった西洋画」

講師/山形大学地域教育文化学部 准教授

小林 俊介

第3回

10/29(土)

13:30~17:00

「表装のい・ろ・は

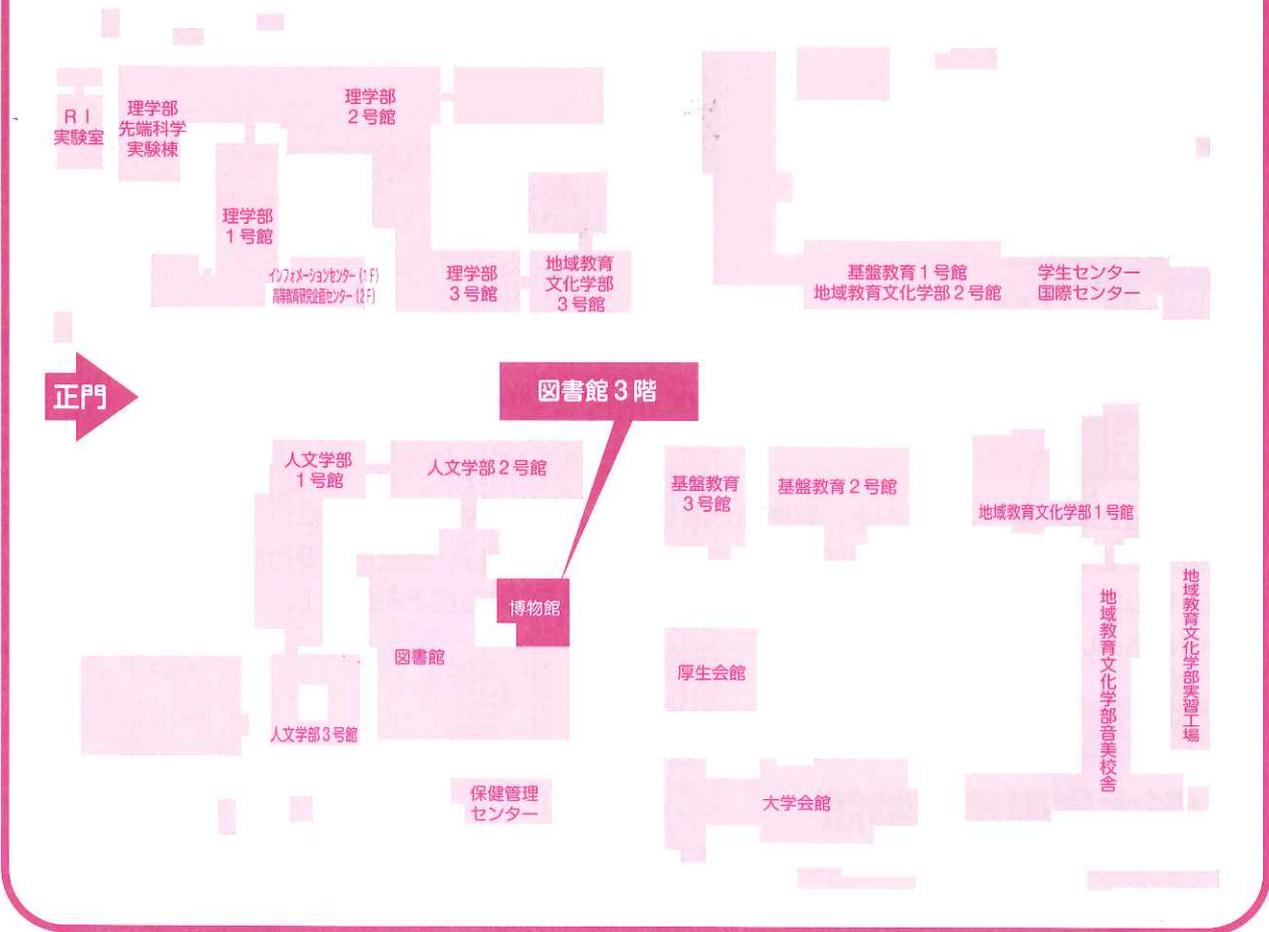
-掛軸の取り扱いから裏打ちのやり方まで-

講師/土屋光雲堂店主

土屋 威夫

会場案内図

＜バス＞ JR山形駅東口バス停から県庁行きバスで南高前下車。
徒歩約5分。



公開講座当日は、なるべく公共交通機関をご利用下さい

払込取扱票

02	口座記号番号										通常払込料金加入者負担								
0	2	2	6	0	7	9	2	4	7	8	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
															2	0	0	0	

加入者名	国立大学法人山形大学										料金	備考
------	------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	----

「掛軸のい・ろ・は」申込書 附属博物館

※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。

○職業をお書きください。()

○年齢をお書きください。()

○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方はご記入ください。()

※個人情報について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー等のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない (いずれかをチェック願います)

おとこ (郵便番号)											日附印
※											
おなまえ											様
(電話番号)											

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号仙第8982号)

これより下部には何も記入しないでください。

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

切り取らないで出してください。

振替払込請求書兼受領証

口座番号	0	2	2	6	0	7	通常払込料金加入者負担	
加入者名	国立大学法人山形大学							
金額	千	百	十	万	千	百	十	円
				2	0	0	0	
ご依頼人	おなまえ ※							
料金	様							
備考	日附印							

この受領証は、大切に保管してください。

イブニングサロン in YONEZAWA

シーズやニーズの出会いの場
新しいタイプの異業種交流を体験しましょう
ドリンク片手に情報交換しませんか？

第7回

日時:平成23年9月10日(土) 18:00~19:30

会場:山形大学街中サテライト(米沢市門東町3-1-47)

TEL:0238-40-0761 内容:

* 東日本大震災を考える!

・「復興への第一歩！」

浪江町 (株)鈴木酒造店専務取締役 鈴木 大介 氏

・「風評被害と支援」

福島路ビール(M-5) 吉田 重男 氏

・「相馬焼きの移転と再建」の紹介

福島県ハイテクプラザ(M-1) 宇野 秀隆 氏

* フリーデスカッション

・「今、我々の出来ることは何か？」

コーディネーター(M-1) 池田 謙 氏

* 情報交換・名刺交換

参加費:1000円(資料代・飲み物代)

飛び入り発表・差し入れ 大歓迎です。

会場準備の都合上 9月5日までお申し込みください

申し込み : E-mail: saitomasak@pref.yamagata.jp(齋藤まで)

主催 : (NPO法人) Y-MOTネットワーク

[出 欠] 恐れ入りますが出席される場合のみ、9月 5日(月)までメールまたはFAXにて下記宛てに御連絡願います。

FAX 0238-40-0765
mail:saitomasak@pref.yamagata.jp

(連絡先)

〒992-0039 米沢市門東町3-1-47 街中キャンパス内
Y-MOTネットワーク(渡邊 毅)
TEL:0238-40-0761 FAX:0238-40-0765
[mail:watanabe@srk.jp](mailto:watanabe@srk.jp)

出席連絡表

企業名:

- 役 職:

- 氏 名:

生物の多様性を考える。

参加申込書 土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用

●期日 2011.10/15.Sat
9:00~16:00(受付は8:30より開始)

●会場 山形大学農学部3号館

●対象 高校生/定員20名(先着順)

●参加費 無料(昼食付)

●申込締切日 2011.9.16(金)

●参加ご希望の方は9月16日までに、E-mail、FAX、電話で下記お問い合わせ・お申し込み先までお申込ください。

生物の多様性は、進化および生物圏における生命の維持のため重要ですが、すべての生物(微生物、植物、動物)は、個々に生きているわけではありません。それぞれの生物種は、他の生物種とともに一定の生物圏の中に組み込まれて生存競争のもとで相互依存的に生息しています。そこで本プログラムでは、最初に土壌微生物、植物、昆虫を対象としたインドネシアと日本で実施した研究成果を紹介し、次に、土壌微生物、植物、昆虫を対象としたそれぞれの実習を行い、農学のおもしろさを広くお伝えします。どうぞ、お気軽にご参加ください。

未来博士号が授与される 高校生対象特別プログラム

- 講師/安田弘法教授
西澤隆教授/俵谷圭太郎教授
村山秀樹教授/佐藤智准教授
- 講義/生物の多様性を考える
~土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用~
- 実験1/土壌微生物を観察する
~菌根菌の役割~
- 実験2/植物を分析する
~ポリフェノールの役割~
- 実験3/昆虫を観察する
~植食者と捕食者の関係~
- なんでも質問コーナー

主催:山形大学農学部

●お問い合わせ・お申込み先/山形大学農学部企画広報室
山形県鶴岡市若葉町1-23 〒997-8555 tel.0235-28-2910 fax.0235-28-2812
E-mail:nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp





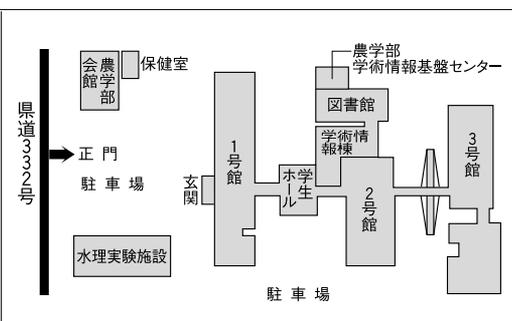
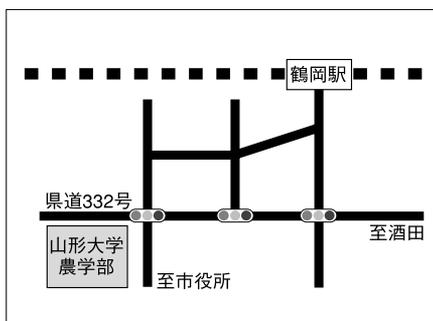
未来博士号が授与される、高校生対象の特別プログラム

生物の多様性を考える

●当日のスケジュール

土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用

- 8:30~9:00 受付(3号館1F)
- 9:00~9:15 開講式
- 9:15~10:00 講義/生物の多様性を考える
……土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用
- 10:00~10:15 休憩
- 10:15~11:35 実験1/土壤微生物を観察する
……菌根菌の役割
- 11:35~12:35 昼食(教員、学生、参加者との交流)
- 12:35~13:55 実験2/植物を分析する
……ポリフェノールの役割
- 13:55~14:25 休憩(クッキータイム)
- 14:25~15:45 実験3/昆虫を観察する
……植食者と捕食者の関係
- 15:45~16:00 修了式(未来博士号授与)



この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、ファックスでお申し込みください。

fax.0235-28-2812

参加申込書

平成 年 月 日

●お名前(フリガナ)		□男性 □女性
●ご住所 〒 <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>		
●TEL () () ()	●FAX () () ()	●メールアドレス
●学校名	●年齢 () 才	●保護者同意の有無 □同意あり □同意なし
●このプログラムに期待すること		

●ご記入いただいた個人情報については、本事業に関する準備、連絡以外には使用いたしません。●不明な点などがありましたら、下記までご連絡ください。

〈お問い合わせ・お申込み先〉山形大学農学部企画広報室
山形県鶴岡市若葉町1-23 〒997-8555 tel.0235-28-2910 fax.0235-28-2812
E-mail.nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ときめき、ひらめき、サイエンス ●下記のホームページからお申し込みができます。

<http://www.jsps.go.jp/hirameki>



リサイクル適性(A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。